

## ～第6回ビジネスデスクレポート～

### 上海万博の影響について

2010. 9

本年5月に開幕した上海万博も、今までの最多入場者数記録を持っていた大阪万博を超えそうな勢いで「入場者数が当初目標を達成するか」という点と共に、「この万博が中国に与える影響」ということが話題に上るようになってきました。

結論から先に言ってしまうと、「経済活動に与える影響は僅か」という意見が大勢を占めます。その第1の根拠は先年の北京オリンピックの「その後」に求められ、オリンピック前後で中国経済の成長持続の傾向には殆ど変化が無かったというものです。確かに現地に滞在して中国の人の日々の暮らしを目にしていると、万博イベント期間中の経済効果はそれなりに有るようで、上海万博が個人消費の牽引役となって社会消費小売総額も金額ベースでかなりの好調を記録しています。しかし、一方では「上海万博」という一大イベントによる経済効果を霞ませてしまうほど、中国全体の大きな景気上昇の流れの方が世界的に強烈なインパクトであるとも言えます。

また、今回の万博では、「今や万博の意義は認められない」と当初不参加を表明していた米国がその理由としていたように、次世代に大きな経済効果をもたらすかも知れない未来的・革新的な技術が提供されたわけではなかったというのも印象的です。この点が「経済的影響僅少説」の第2の根拠とされます。

しかしながら、経済以外の分野に及ぼす影響となると、俄然話は盛り上がります。特に、(1)オリンピックに続き万博という国際的2大イベントを成功させた事による中国及び中国国民の自信と、(2)国際社会に於ける「中国の存在価値」の飛躍的な増大については、若干のねたみを感じつつも殆どの意見が一致しています。これらの政治的あるいは精神的な自信が更に中国経済を成長させて行くであろうという、言わば大きな「弾みの効果」がもたらされた事は、想像に難くありません。

また、記録的な数の国民が他国パビリオンを訪れ、外国の文化・文物に触れたという点も将来的には良い効果をもたらすと見られています。例えば日本パビリオンでは伝統的な日本文化のみならず日本製品の先進性・良質性を、同時開催の日本産業館と共に発信していますし、この期間中に市内各所で開催された各地の物産展や見本市が盛況だったことから、いわゆる「日本ブランド」の確立におおいに寄与したと考えられます。

確かに万博期間中は、地下鉄搭乗口で手荷物検査(X線透視)を受けなければならなかったり、市外地から市内に入る高速道路の料金徴収所に設けられた検問所で身分証明書(外国人はパスポート)を提示させられたり、市内各所で突然の交通規制と検問が行われたり、路上の屋台が強制的に撤去されたりと、外国人を含めた市民生活に対する統制が強化されていたというのも事実です。しかしそれらを乗り切っていく中国市民の逞しさを見ると、発展著しい中国の未来には限界の無い脅威さえ感じ得ません。